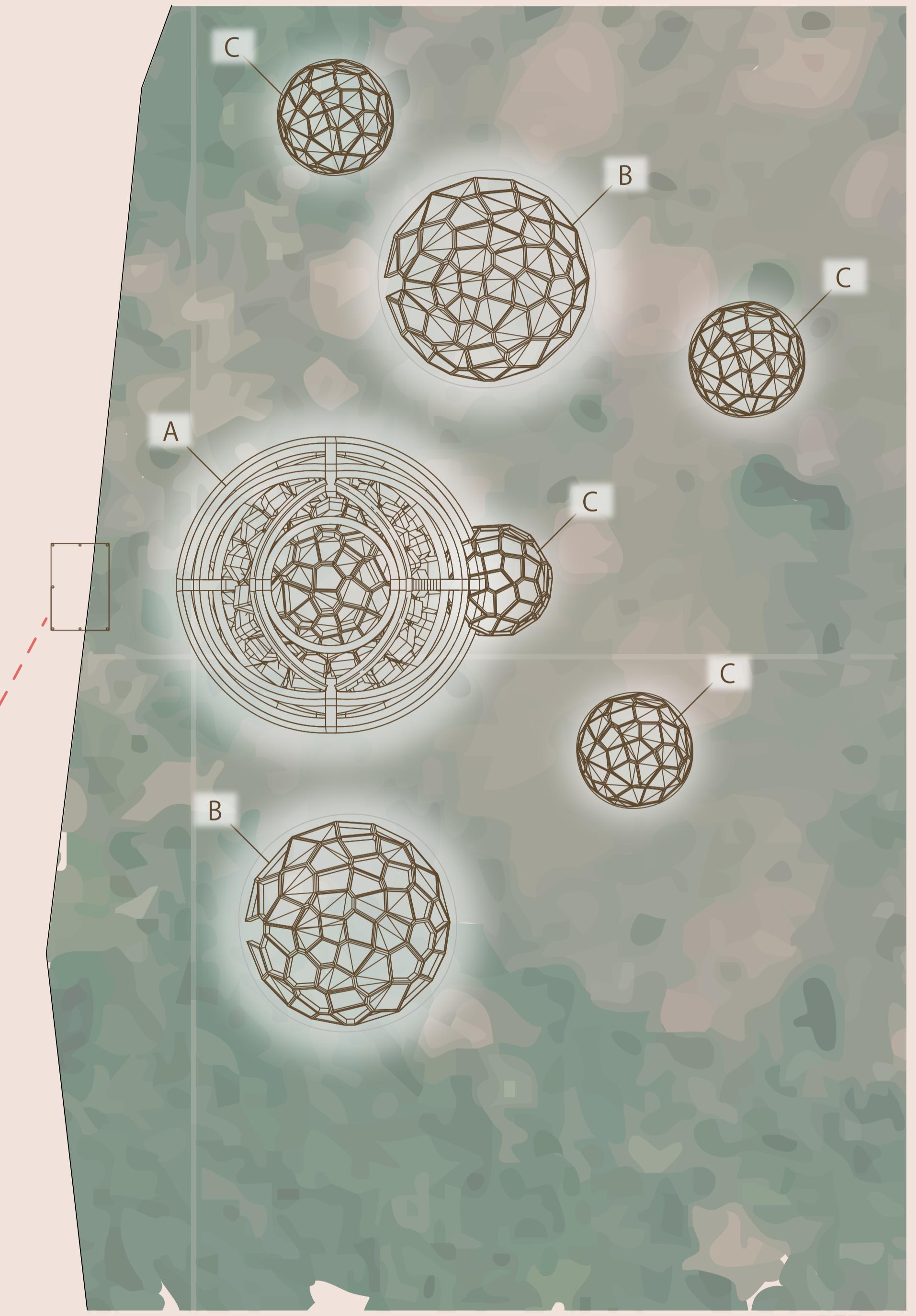


04 配置図

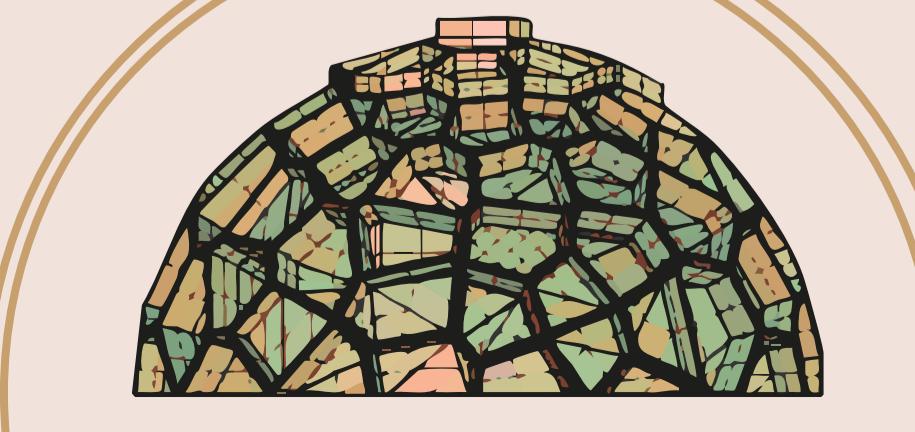
本施設は、船で訪れるため、対岸の馬越地域側に配置する。
中洲は自然の力によって形成されているため、中央に行くにつれ、人の手が入らないように配置する。
本計画では3種類のドームを使用する。
ドームの大きさによって人間と自然のグラデーションをつくり、互いの距離感を保つ。

馬越島の中心部は水田として使われていた歴史があり、植物が根を張りにくい、耕作放棄地となっている。
そこに本建築を計画し、島内に自然を拡張させる。

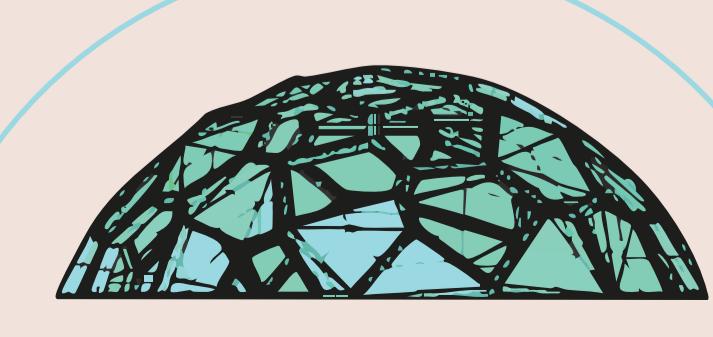
人が使わないとこは木製。
建築を使って植物が拡大していく。
後に建築が朽ちる。
人がいる拠点は鉄だから朽ちない。
人々は島の中に自然が広がっていくのを見ることができる。



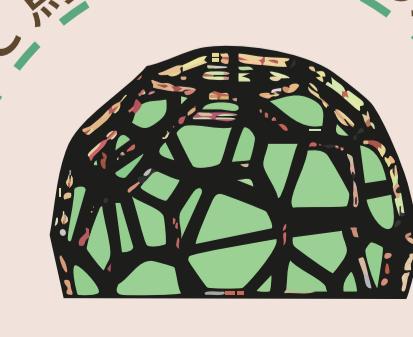
A 人が拠点とする建築



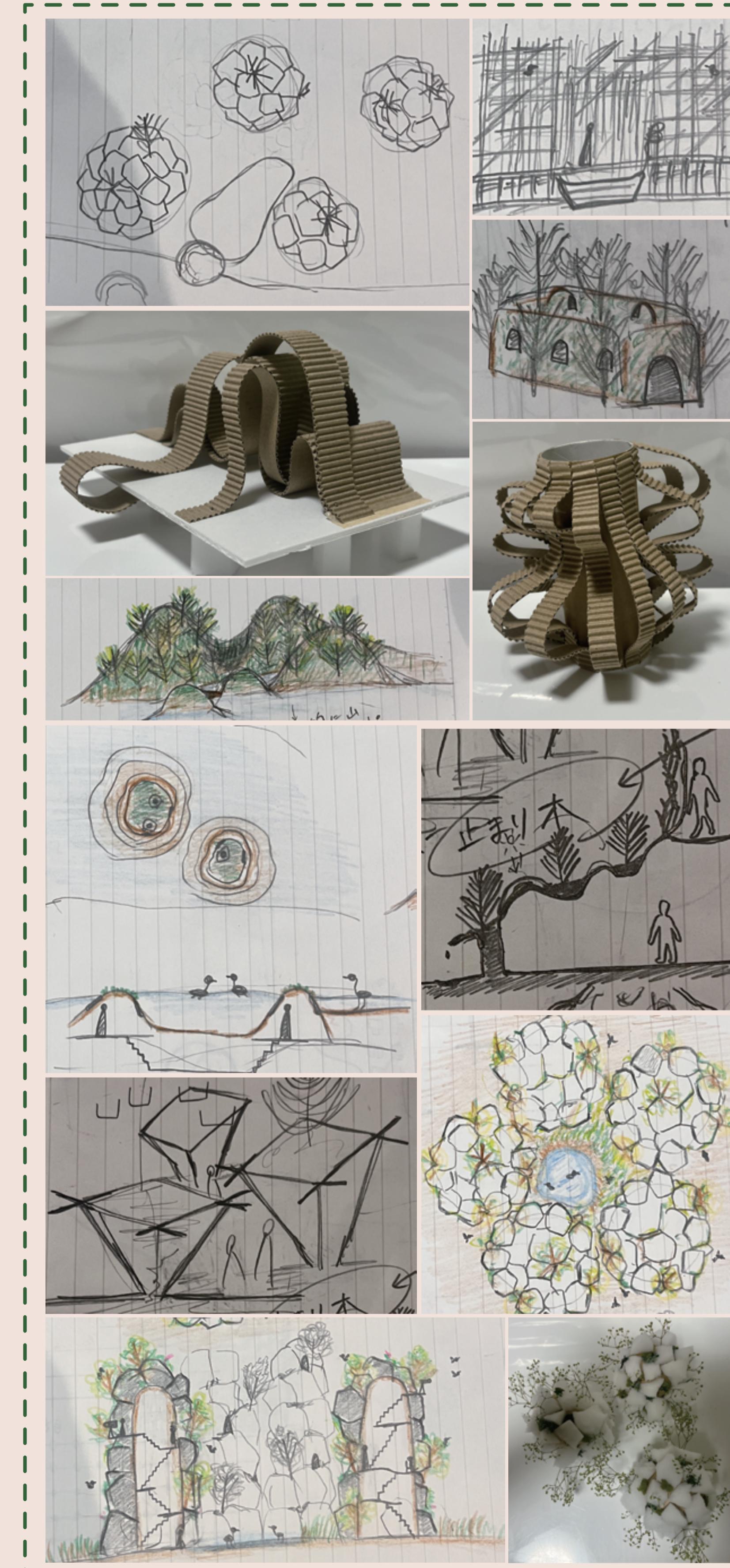
B 中間の建築



C 鳥だけが使える建築



05 デザイン

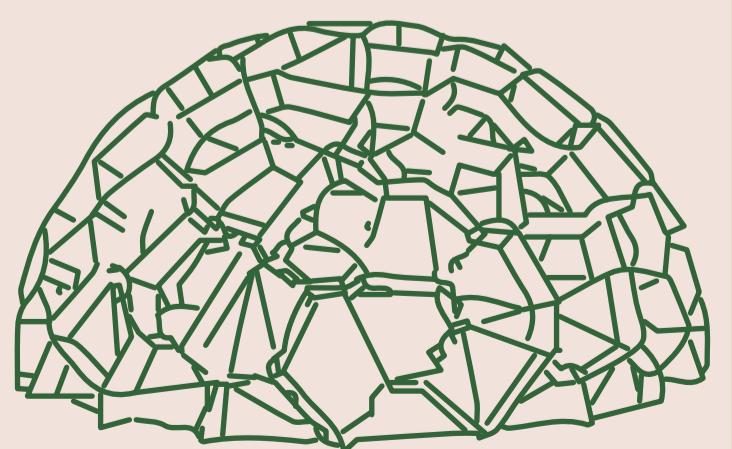


木の根っここのすき

凸凹のデザイン

ぐるぐる絡み合っていく

自然界のパターン



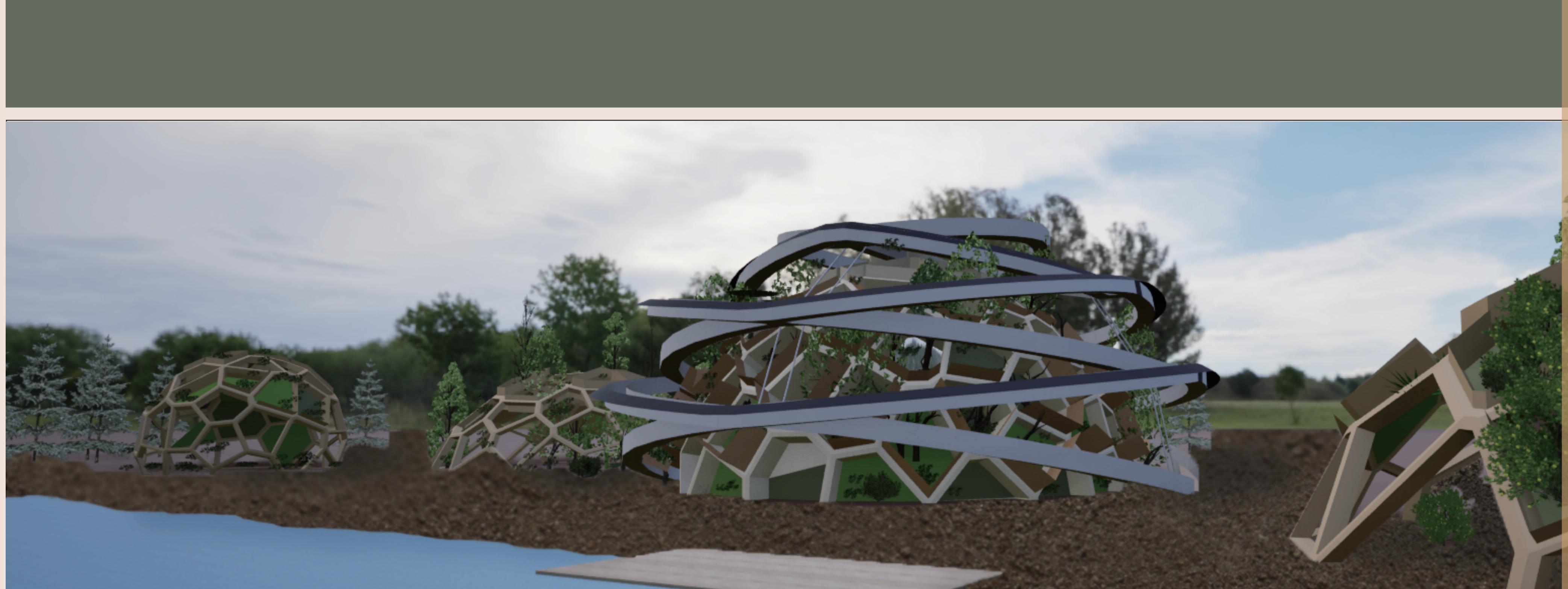
時間から植物が生えたら・・・？



均一にしてみる

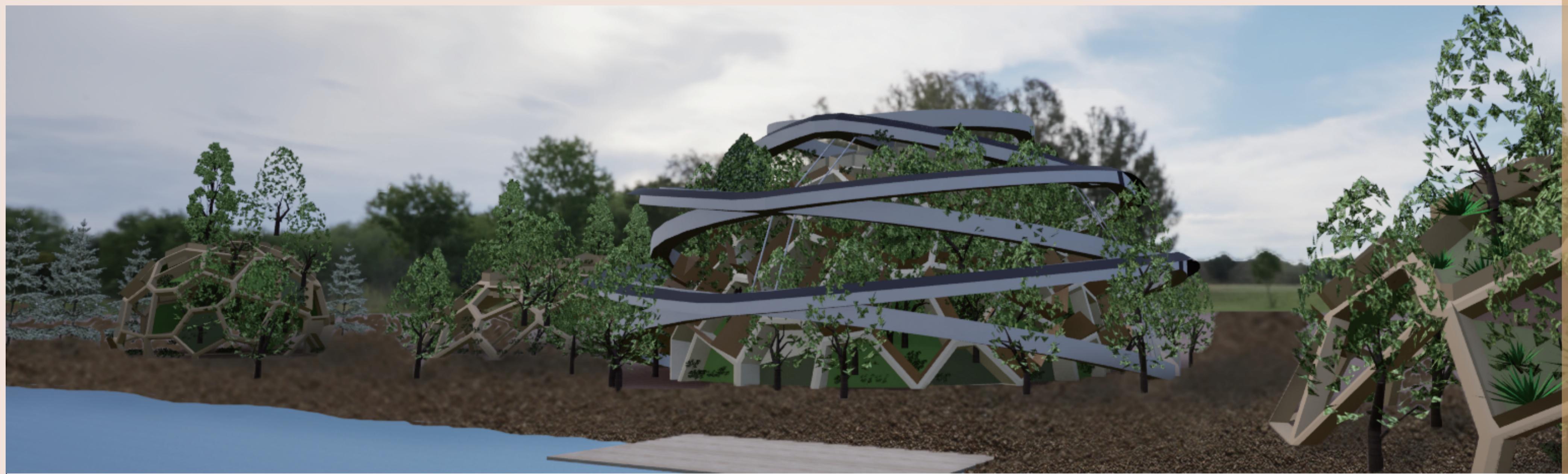


自然の中を歩く回廊



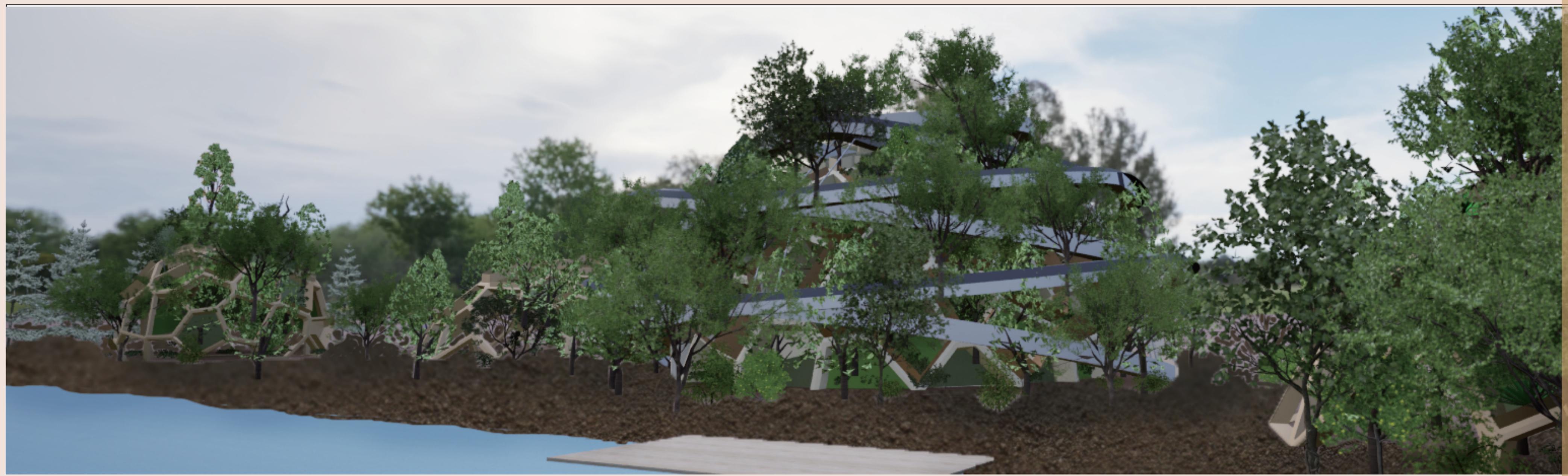
1年後

竣工時に植えた植物が育つ
鳥が集まり、人が集まる



15年後

鳥たちが落とした種が芽吹く
植物が成長し、建築が緑に包まれていく

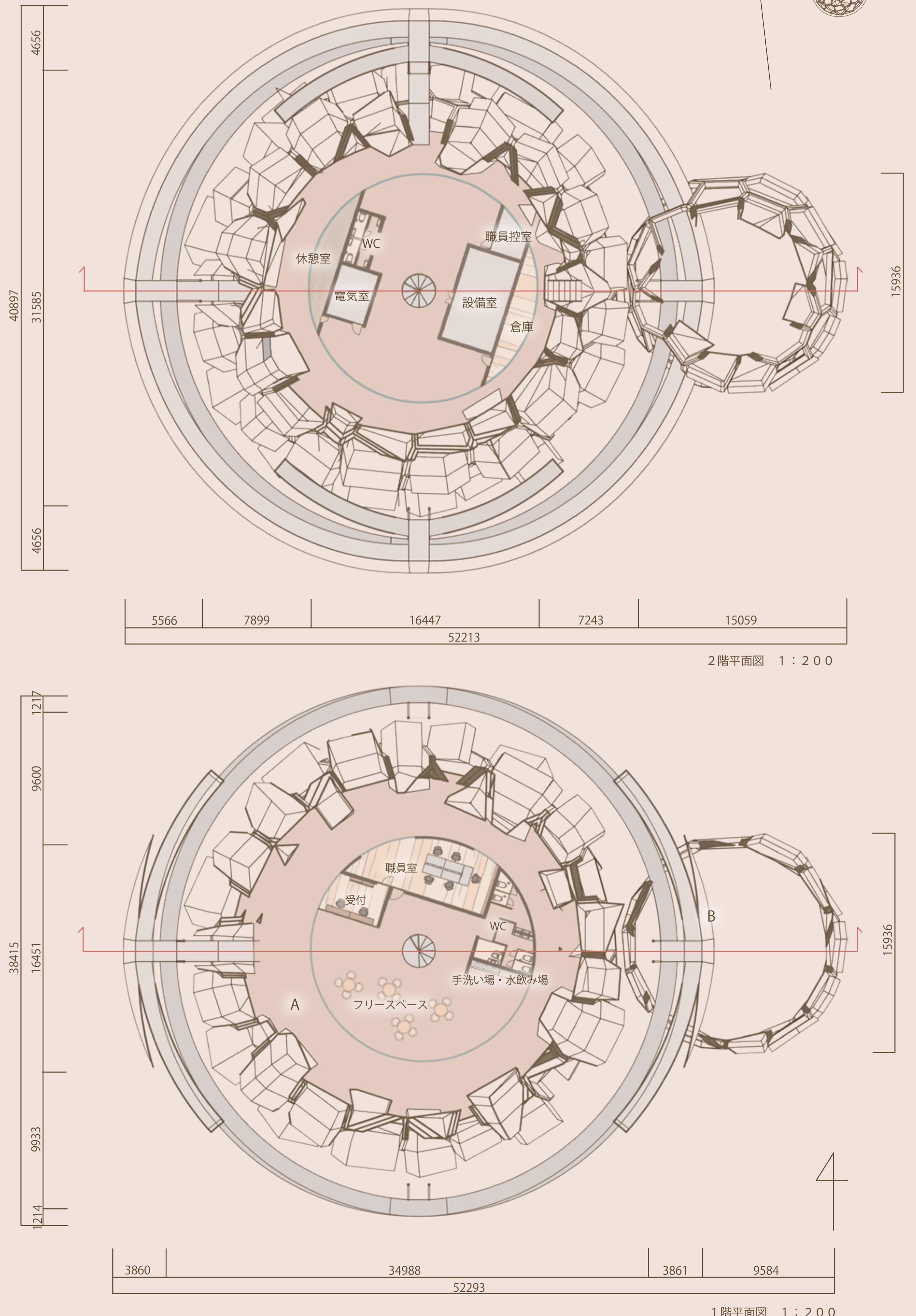


50年後

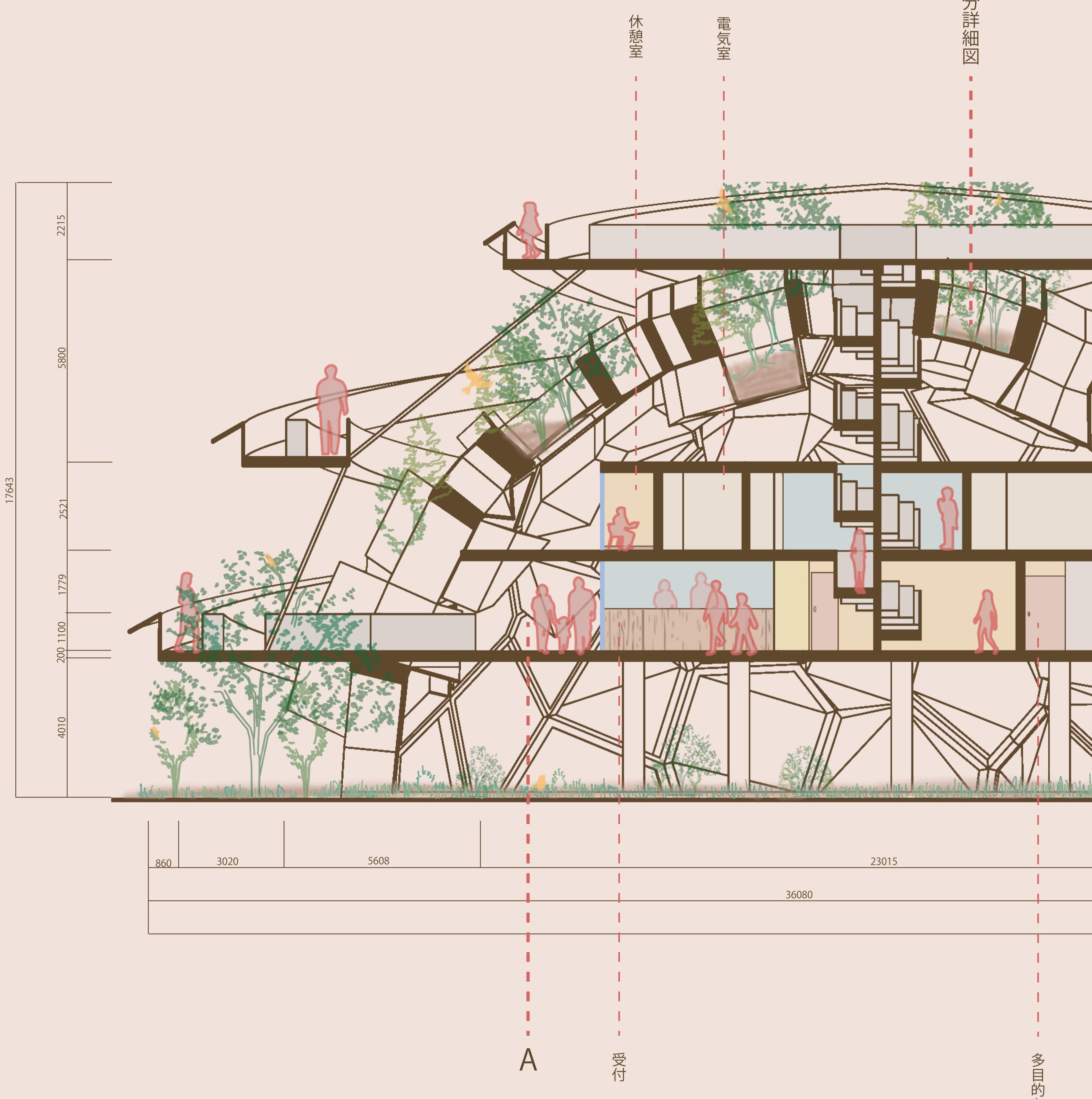
植物が建築を覆う
建築と植物の境界が混ざる

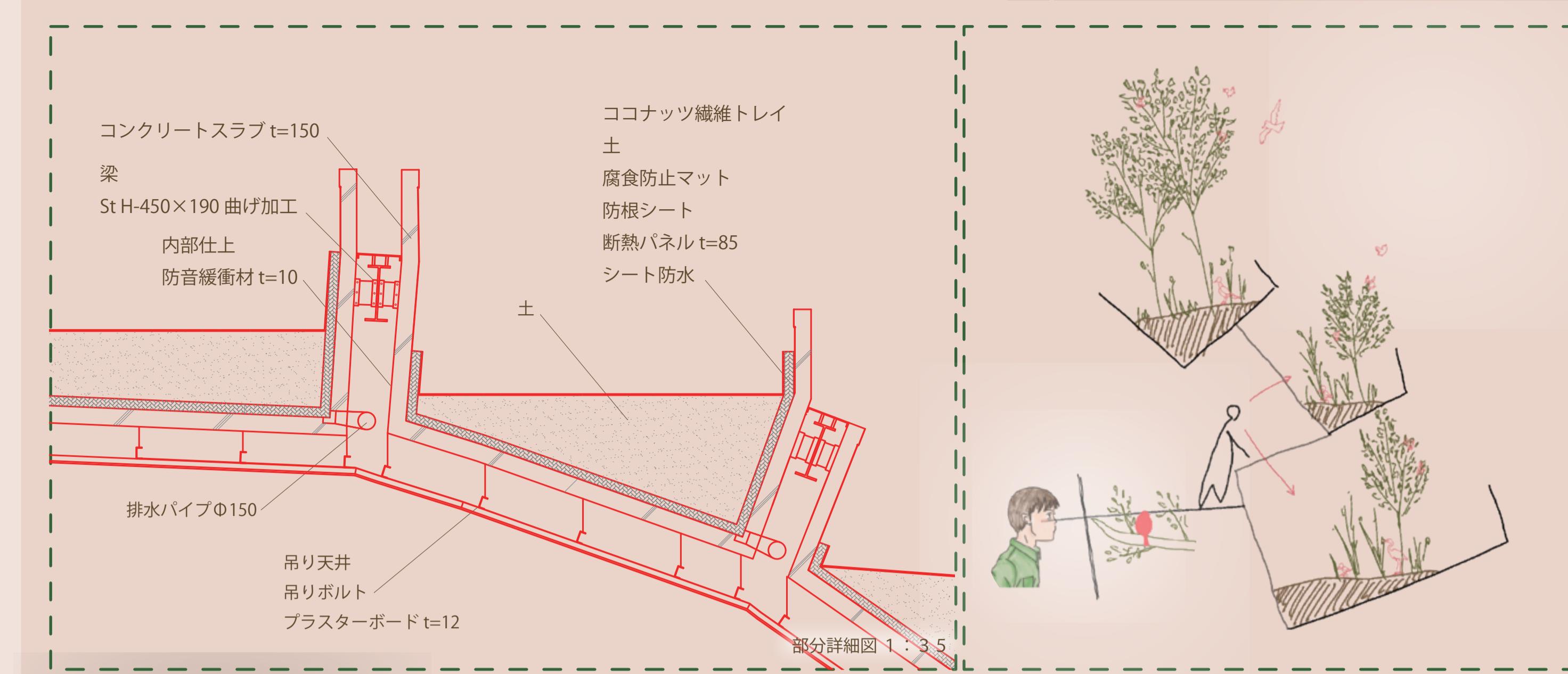
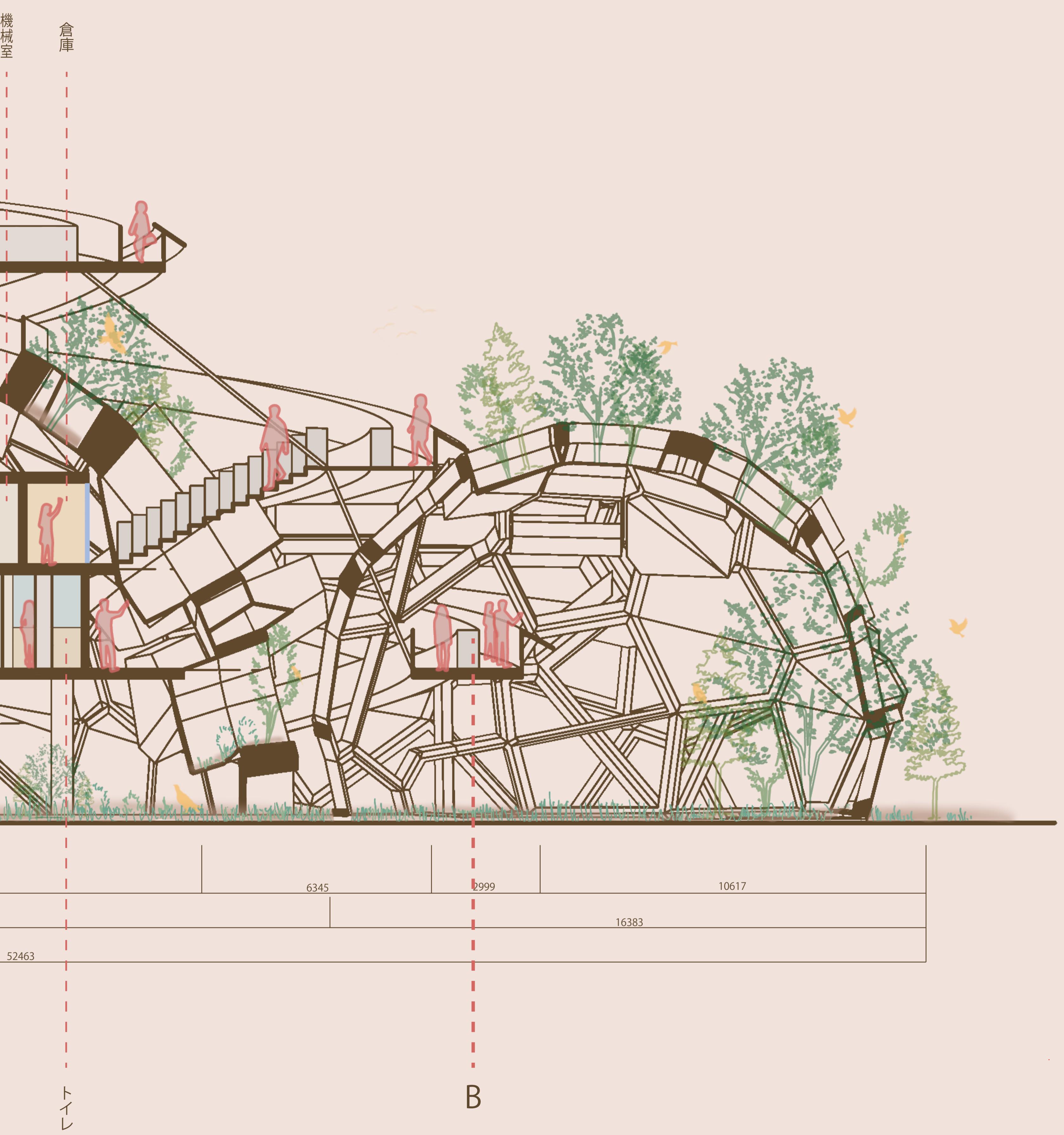


06 平面計画

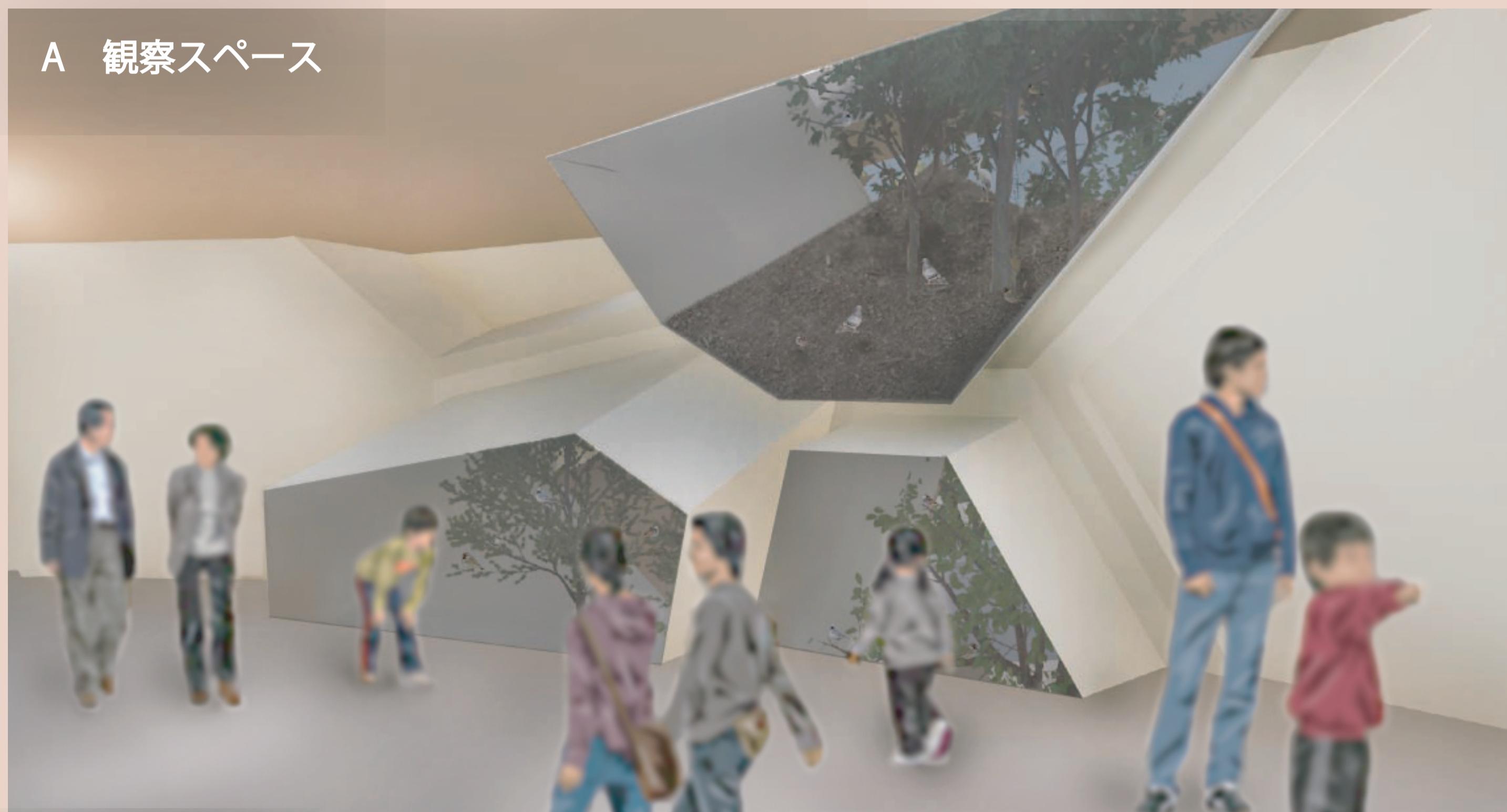


07 断面計画





A 観察スペース



B 鳥ゾーン

